

授業科目：	生活環境科学		
科目区分：	人間と社会生活の理解に関する科目	受講者数：	16名
担当者：	吉田 倫子（保健福祉学部人間福祉学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ <b>参加型</b> ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせで実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	グループワーク，事例検討，ディスカッション，プレゼンテーション		

## 1. 授業の概要と目標

本授業は対面形式で実施している。

将来、専門職として支援を行う患者や利用者が地域の中で生活していくためには、様々な課題がある。そこで、本講義では特に住宅、地域、都市における生活環境の諸問題について論じる。住宅と人間の関係性、地域におけるまちづくり、住宅・都市における法制度などについて学び、住宅や地域の特性に対応した支援ができるようになるための基礎的な知識や技能を習得する。授業内ではグループ学習や住宅設計を通し、生活環境の課題について参加する学生同士で理解を深めていく。

本授業の目標は以下に示す。

《知識・技能の観点》①患者や利用者、地域住民が暮らす住まいや地域についての諸問題を理解し、説明できる。②専門職として支援をするために必要な居住環境に関する基礎的知識について理解し、説明できる。

《思考・判断・表現の観点》事例を通して、高齢者や障害者等が快適に住める環境づくりの課題を指摘できる。

《主体性・協働性の観点》少人数にわかれ、グループ内で共同作業や討論をすることにより、授業に関心を持った内容について、わかりやすく説明したり、他の人の話を聞いて話し合ったりすることができる。

## 2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「生活環境科学」 第11回 住まいを計画する方法1

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入	本時以降の授業の流れと目標の理解(5分) 「介護が必要な親と同居する住宅」	本時以降の学修の流れと目標を理解させる。	
展開	事例の説明(20分) デザイン条件①家族の背景や住宅へのニーズ デザイン条件②土地や地域の状況 デザイン条件③具体的な室数や面積など詳細条件  <b>グループワーク</b> 事例についてワークシートの課題に沿って話し合う。話し合った結果を発表する。  <b>演習1</b> 老化現象とデザイン上の配慮を振り返り、住宅のコンセプトを考える <b>発表</b> グループの代表者が発表  <b>演習2</b> 必要なデザイン上の配慮について考える <b>発表</b> グループの代表者が発表  <b>演習3</b> 部屋の配置を考える <b>発表</b> グループの代表者が発表	住まいに関する人、土地、建物に関する条件を説明し、理解させる。 プリントを空欄にしておき、順番にあてながら回答を全員で埋めていく。  演習1・2では、これまでの授業を振り返り、プリント等を見ながら、事例に当てはめて考えさせる。 演習3では、自分たちの考えを具体的な住宅設計に反映するため、言葉で整理させる。 それぞれの演習毎にグループ発表を行うことで、互いの意見から知識や視点を学ばせる。	

<b>まとめ</b> <b>10分</b>	本日の活動の振り返り(10分) ・演習の成果について講評を行う ・住宅設計に関する重要な視点を教授 ・次回の授業の準備を伝える ・リアクションペーパーの記入	本時の学修全体を振り返らせる。	ワークシート及びリアクションペーパーにより、授業への積極的な態度を評価する。
--------------------------	--	-----------------	--

### **3. 成果・効果**

演習毎に発表をすることで、新たな視点や知識を得ていき、グループの案に反映させることができる。住宅設計をするために必要な考え方を段階を踏んで理解できており、コンセプトがある住宅設計ができるようになる。

### **4. 課題**

事例を通した住宅設計の初回であるため、今後どう展開していくのかを十分に理解できず、取り組んでいる。リアクションペーパーにも、「これからどうやって設計していけるか、不安」などのコメントがあり、次年度に向けて、住宅設計の全体像の説明をさらにわかりやすくしていきたい。

### **5. 資料**

ワークシート，リアクションペーパー